

地域別セグメント情報

当セグメント情報では以下のとおり、「日本」「アジア(日本を除く)」「北・中南米」「欧州」の4地域に分類しており、各地域の当期の業績・事業概況及び来期の見通しをご説明申し上げます。



製造：日本はミネベア・グループの本社所在地であり、軽井沢製作所と浜松製作所はタイヤやシンガポール、中国などの海外の量産工場のマザー工場として機能しております。また、藤沢、大森、京都などにある他の工場では、国内市場向けを中心とした製品を生産しております。

販売：ミネベア・グループ最大の市場ですが、近年は主要なお客様の製造拠点の海外移転に伴い縮小傾向にあります。



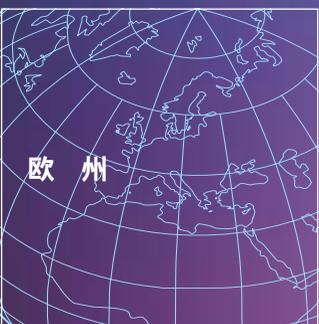
製造：タイ、中国、シンガポールを中心とし、グループ全体の生産高の約75%の製品を生産しており、大部分は世界市場向けに販売されております。特にタイ工場はグループ全体の生産高の約60%を占めるミネベア最大の製造拠点であり、金型の製造・補修から構成部品の加工、組立に至る一貫生産体制が確立されております。

販売：近年、日本や欧米のパソコンや家電製品メーカーの当地域への生産移管が進んでおり、日本に次ぐ大きな市場となってきております。



製造：米国市場向けを中心に、ロッドエンド&スフェリカル・ベアリングや小型モーターを製造しております。また、自動車向けを中心とした製品の品質評価を主たる業務とするテクニカルセンターやスイッチング電源の開発拠点などを有しております。

販売：主にミネベアのアジアの製造拠点で生産された製品を輸入し、北米を中心とした営業拠点で販売しております。



製造：英国の工場では欧州市場向けを中心に、ロッドエンド&スフェリカル・ベアリングや小型ボールベアリングを生産しているほか、スコットランドではタイ工場で生産されたキーボードの欧州向け言語印刷を行っております。また、HDD用スピンドル・モーターやファン・モーター、スイッチング電源などの設計・開発拠点を有しております。

販売：英国、ドイツ、イタリア、フランスの営業拠点で、主にアジアの工場で生産された製品を輸入し、欧州市場向けに販売しております。

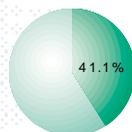
日本

前期に引き続き国内景気の低迷が続き、更に円高に対応するためにパソコンや家電メーカーなど主要顧客のアジア地域への生産移管が一段と進んだ結果、日本国内の需要は低調となりました。また、情報通信機器向けを中心とした製品の販売価格の低下と円高の影響により収益面も厳しい結果となりました。

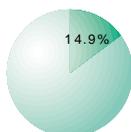
当期の当地域の売上高は前期比3.3%減の117,141百万円となり、連結売上高に占める比率は41.1%でした。営業利益は前期比26.6%減



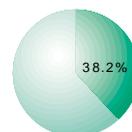
連結売上高に占める比率



連結生産高に占める比率



連結営業利益に占める比率



の11,883百万円となりました。また、当地域での生産高はグループ全体の14.9%でした。

当期は営業活動をより効率よく展開するために国内に3カ所の営業拠点を新設致しました。

アジア(日本を除く)

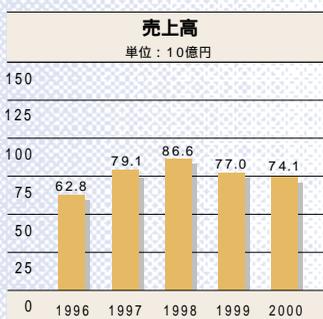
1997年以降の通貨危機による経済混乱も収まり、また、当地域に進出している当社の主要客先である欧米・日本の情報通信関連機器メーカーや家電メーカーなどの製造活動も再び活発になってきたことから、当地域での販売活動は数量面では順調に推移したものの、電子機器を中心とした製品の販売価格の低下などの影響を受け、売上高は若干の増加に止まり、損益面でも厳しい状況となりました。

当地域の売上高は3.9%減の74,067百万円となり、連結売上高の26.0%を占めました。営業

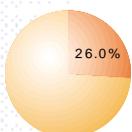
利益は前期比10.9%減の15,173百万円でした。なお、当地域での生産高は211,385百万円となり、グループ全体の74.2%を占めました。

当期はボールベアリングの需要増大に対応するため、中国の工場を中心とした生産能力を強化し、タイの工場で電動パワーステアリング用DCブラシレスモーターの本格生産を開始致しました。更に、タイには2000年中にHDD用スピンドル・モーター及び流体軸受の専用工場、2001年には自動車向けを中心としたモーターの専用工場を総額150億円の設備投資を行い新設する計画を進めております。また、当期中に主要オーディオ機器メーカーが集中するマレーシアにおいて、スピーカーボックスメーカーを買収致しました。

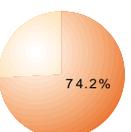
また、アジア経済は引き続き順調に回復するものと思われ、需要の拡大が最も期待できる地域として、来期も主力製造拠点を持つ利点を最大限に活用し、販売活動に力を入れて参ります。



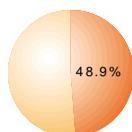
連結売上高に占める比率



連結生産高に占める比率



連結営業利益に占める比率



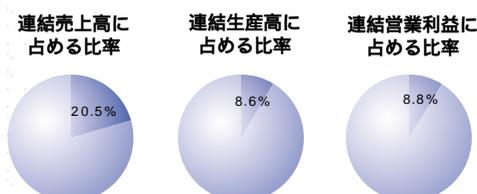
北・中南米

主要市場である航空機業界の停滞によりロードエンド&スフェリカル・ベアリングなどの需要が大きく低迷致しました。また、パソコンを中心とする情報通信機器向け製品の販売価格低下の影響を受けました。

この結果、当地域の売上高は前期比11.5%減の58,253百万円となり、連結売上高の20.5%を占めました。営業利益は前期比13.4%減の2,729百万円となり、連結営業利益の8.8%となりました。また、グループ全体に占める当地域の生産高の比率は8.6%となりました。

当期は、当地域の主要製造子会社New Hampshire Ball Bearings, Inc.のチャッツワース工場の新築を進め、2000年夏過ぎには完成する予定です。また、前期に完成したデトロイトのテクニカルセンターの活動が本格化し、ボールベアリングや小型モーターなど自動車向け製品の拡販や新規受注に対するサポート体制が整いました。

航空機関連製品については、低迷している大型機の需要も回復傾向にあり、更に、今後は取り組みの遅れていたカナダ、ブラジルの小・中型機市場への本格参入をはかって参ります。また、パソコンを中心とする情報通信機器業界向け製品の拡販や自動車業界の新規市場の開拓を進めて参ります。



欧州

パソコン向けを中心とした製品の受注減の影響を受け、収益面では厳しい状況となりました。

当地域の売上高は前期比14.7%減の35,296百万円となり、連結売上高の12.4%となりました。営業利益は前期比41.2%減の1,284百万円となり、連結営業利益の4.1%でした。なお、生産高の比率はグループ全体の2.3%でした。

当期は前期の後半に新設したファン・モーターの開発拠点(英国)及びスイッチング電源の開発拠点(ドイツ)が本格的に稼動し、欧州地域での同製品の販売活動に対するサポート体制が強化さ

れました。また、HDD用スピンドル・モーターを中心とした小型モーターの開発・設計を行うPrecision Motors Deutsche Minebea GmbH (PMDM社)の新社屋建設を進めており、2000年秋の完成後はミネベア・グループの小型モーターの中心的な開発拠点となります。

来期はこれら研究開発拠点の機能を大いに活用し、主力製品の拡販を進め、業績の向上に努めて参ります。

